

通常の学級における包摂力のある好事例

【キーワード】	自己肯定感のある授業づくり、「分かる」「できる」学び、認められる安心感
【学校、学年】	小学校 【 6 】年
【状況、様子 等】	<p>○児童I、Jの様子等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童I、Jは、低学年から同じクラスで過ごしていた。 ・タブレットで調べることは好きで口頭では表現できるが、それを書いたり、まとめたりすることが苦手であった。 ・読み書きの多い課題は苦手で取り組もうとしなかった。 ・教師から注意されると暴言を吐いたり、殴りかかったりした。 ・興味のない授業では、関係のない工作をしたり、勝手にタブレットでゲームをしたり、友達のところへと立ち歩いたりした。 <p>○学級の状況等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級は、小規模校のため単学級。 ・常にイライラしている空気に包まれ、担任のちょっとした発言や行動にすぐにカッとなり、暴力を振るうことがあった。 ・低学年から落ち着いて学ぶ学習環境が十分に整わず、低学力の児童が多かった。
【対応・工夫】 支援、合理的配慮、基礎的環境整備、学級経営、支援体制 等	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な支援を増やし、口頭でも答えられるようなやりとりを自然に行うようにした。(合理的配慮) ・クラス全体が学習に向かえるよう10分程度、簡単な問題が含まれる下学年の内容の復習を取り入れた。(学級経営) ・問題数を減らした習熟度別のプリントを複数用意し、それぞれが自分の力に合わせて自分のペースで取り組めるようにした。(支援・手立て) ・「できる」「分かる」ことで「褒められる」経験を増やし、お互いを認め合う雰囲気づくりを行った。(学級経営) ・クラス全体を回りながらも児童I、Jを中心に個別指導を行った。(支援) ・支援員は過度の支援を行わず、見守る程度とし、担任の補佐役に回るようにした。担任の動きを見ながら、必要な声かけを行うようにした。(支援体制)
【結果、変容 等】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業へ取り組む姿勢を重視した取組から、「分かる」「できる」ことが増えた。これまで分からないと諦めていた児童が、黙々と自分の課題に取り組む、達成感を得るようになった。 ・静かに集中する時間が増え、学習の習慣が身についてきた。 ・学級全体が落ち着き、静かに集中する時間が長くなった。 ・自己肯定感が上がったことで、互いを認め合う発言や関わりが増えた。6年生として下級生のクラスや特別支援学級にも積極的に足を運び、やり取りをするなど学校全体の空気が変化した。